

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-34	実施計画番号	40	事業開始年度	平成8年度
事務事業名	公民館講座の推進			事業終了年度	
担当課名	東公民館			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	社会教育法第22条・市公民館条例第4条	関連事務事業			
背景や経緯等	市民の多様化する学習ニーズに応えるため、民間教育事業者等を活用しながら、時代に合った幅広い学習機会を提供する。				
事務事業の目的	市民の学習意欲を高め、生涯学習の推進を図るとともに心豊かな生活の実現を目指すため、各種講座を開設する。				
実施状況	市民の学習要求に応え、専門的な講座を展開するために導入した民間教育事業者による講座を開設している。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	34	34	34
	人件費(千円)	1,224	1,224	1,224
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	68	68	68
パートタイマー	人件費(千円)	284	284	284

## 【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	2,170	2,170	2,170

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		民間教育事業者による講座数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	講座数		講座	39	34	35
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		講座への述べ参加者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	参加者数	人	目標値	17,000	15,000	15,000
			実績値	16,342	13,000	15,000
			達成度(%)	96%	87%	100%
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

# 十和田市事務事業評価シート

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>存在意義の見直しの余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">                     ・民間教育事業者による講座が、全国の公民館から先進事例として注目され模範となった。                      ・市民のニーズに応え、専門的な知識・教養・技術が身に付く学習機会の提供が来ている。                 </td> </tr> </table>	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>	・民間教育事業者による講座が、全国の公民館から先進事例として注目され模範となった。 ・市民のニーズに応え、専門的な知識・教養・技術が身に付く学習機会の提供が来ている。	
	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>								
・民間教育事業者による講座が、全国の公民館から先進事例として注目され模範となった。 ・市民のニーズに応え、専門的な知識・教養・技術が身に付く学習機会の提供が来ている。										
② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>成果向上の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>2 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">                     ・中央公民館の閉館により、いくつかのサークルの移動が見られたことと講座の休講・閉講があることから、講座の開設基準を40から35に変更する。                      ・情報収集による新規講座の開設に努める。                 </td> </tr> </table>	<b>成果向上の余地</b>	<b>2 / 6</b>	・中央公民館の閉館により、いくつかのサークルの移動が見られたことと講座の休講・閉講があることから、講座の開設基準を40から35に変更する。 ・情報収集による新規講座の開設に努める。	
	<b>成果向上の余地</b>	<b>2 / 6</b>								
	・中央公民館の閉館により、いくつかのサークルの移動が見られたことと講座の休講・閉講があることから、講座の開設基準を40から35に変更する。 ・情報収集による新規講座の開設に努める。									
④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>コスト削減の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">                     ・一般財源を使うことなく、学習機会の提供が来ている。また、講座の開設に伴って歳入が見込まれる。                 </td> </tr> </table>	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>	・一般財源を使うことなく、学習機会の提供が来ている。また、講座の開設に伴って歳入が見込まれる。	
	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>								
	・一般財源を使うことなく、学習機会の提供が来ている。また、講座の開設に伴って歳入が見込まれる。									
⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>受益者負担適正化の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">                     ・公民館での受講、安価で適切な月謝ということから安心感がある。                 </td> </tr> </table>	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>	・公民館での受講、安価で適切な月謝ということから安心感がある。	
	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>								
・公民館での受講、安価で適切な月謝ということから安心感がある。										
⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
<b>現在の適性</b>					<b>18 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>2 / 20</b>			

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

**有効性を改善して継続**

### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

・民間教育事業者による講座の開設基準を40講座としてきたが、26年度末から27年度にかけて休講・閉講が相次ぎ、27年度末で34講座の見込みとなっている。また、中央公民館の閉館によりコースなど数サークルが移動してきたこともあり、開設基準を35講座としたい。

### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

・他の公民館と重複しないよう、3公民館においてそれぞれ特徴のある講座の開設を目指す。  
 ・情報収集に努め、市民のニーズに応える講座の開設をする。